

# 歴史支えた道・川・吉野

## 秘宝・秘仏特別開帳記念フォーラム

奈良の主要な古社寺が所蔵文化財を特別公開する「祈りの回廊〜奈良大和路 秘宝・秘仏特別開帳〜」が秋期入りしたのを記念する「セカンドフォーラム」（平城遷都1300年記念事業協会主催）が4日、橿原市の橿原文化会館で開かれた。県南部・吉野の魅力、古道や河川水運と精神文化のつながりについて、社寺代表が討論。約800人が聴き入った。

（編集委員・小滝ちひろ）



春に奈良と東京で開いたスタートフォーラムに続く催し。秘宝・秘仏開帳の見どころ紹介などに続き、吉野神宮の河崎宏宮司ら6人による討論会があった。

河崎宮司は「天武・持統天皇らがたびたび行幸した吉野宮の推定地は、清らかな水が流れ、神の山をおおぐところ。吉野は古代から神仙が住む聖地だった」。これに、春日大社の花山院弘法宮司が「京都に都が移った後、その南の奈良・吉野・熊野は一種のパワースポット、精神的エネルギーの源として特別な存在となった」と応じた。

## 討論に800人聴き入る

高取町にある壺阪寺の常盤勝範住職は、寺が奈良盆地・吉野の境界にあることに触れて「吉野川を下れば海に出る。古代人は、奈良から吉野へ抜ければどこまでも行ける」という感覚だったのではないかと推論を披露した。

また、大阪湾岸と奈良中西部を結ぶ竹内街道沿いにある当麻寺奥院の川中光教住職は「街道は港と飛鳥の都を結ぶ国道1号のようなもの」、飛鳥川や大和川の合流点に位置する広瀬神社（河合町）の樋口俊夫宮司は「古代の幹線道路は奈良盆地の東・中部を走るが、西部にはない。大和川などの河川交通が発達したためだ」と話した。

こうした地理や歴史が育んだ奈良の将来について、東大寺の狭川普文執事長は「さまざまな人や思いがぶしあうことなく、うまく存在してきたが、（現代の世相を見ると）危機感を感じなければいけない」と戒めた。

### 社寺代表6人が出席、橿原で

奈良の歴史を支えた道と川のつながりについて討論する出席者ら  
 〓 橿原市の橿原文化会館